

## Y2Kによる我が国への影響について

平成12年1月2日午後8時現在

### 2. 具体的事例

#### (1) 電力

・1月1日0:02に東北電力女川原子力発電所1,2号機において「プロセス計算機検出器故障」警報が発報し、1月1日0時12分に自動で正常に復帰した。その後、1月1日8時02分にも同じ警報が発報し8時12分に自動でクリアした。また、その後の調査で、昨年11月及び12月にも複数回、同じ警報が発報していることが判明。以上の点及びコンピュータについてはY2K対応のプログラム改修及び模擬試験が行われていることから、原因がY2Kとは考えられないが、原因調査を行う。

・北陸電力(株)志賀原子力発電所1号機において、0時以降、安全パラメータ表示システム(SPDS)の表示に不具合が生じていたが、1月1日17:00頃からデータの表示が正常になった。調査の結果、原因は当該システムがプロセス計算機を放射線管理計算機(いずれも二桁の西暦処理)からデータを受信し、西暦を4桁に変更する際、2000年のデータを処理した際に1999年のデータを2099年として処理し、その後の2000年代のデータが受け付けられなくなった。なお、現在も正常に表示しており、今後同様のトラブルが発生することはない。(SPDSは通常原子力発電所の運転状態の監視を行うものではない。)

・1月1日2:00頃関西電力(株)高浜原子力発電所関係の舞鶴市内にある2カ所のモニタリングポストのデータを京都府へデータ伝送ができていないことが判明。なお、伝送は1月1日6時30分ごろ復旧済み。原因については現在調査中。

・1月1日8:58に、東京電力(株)福島第二原子力発電所1号機(沸騰水型、定格出力110万KW)が定格出力運転中、「制御棒位置指示系重故障」の警報が発生し、制御棒の位置表示が行われなくなった。その後、11:15に制御棒指示系盤のエラー表示器の動作不良を確認した。その後エラー表示器の制御基盤の内蔵時計を確認したところ、日付が2036年2月6日となっており、2000年1月1日に修正したところ、1月1日14:12に、制御棒位置指示系の機能が復回復。原因については、引き続き調査中。

#### (2) ガス

#### (3) 上水道

#### (4) 石油

#### (5) 核燃料施設等

・1月1日に発生した日本原燃株式会社の六ヶ所村高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの運転制御・監視システムの一部表示不良については、修正作業が行われ、1月2日朝(7:23)、正常な表示が確認された。なお、今回の一部表示不良による運転制御並びに監視及び監視データの記録に対する影響はなく、外部への影響もない。

#### (6) 電気通信

・ 3時に(株)リクルートのFAX情報サービスの一部に不具合が発生したが、関係のソフトを修正し、16時28分に復旧した。原因は、「ソフトウェアの年情報処理の不具合によるもの。

(7) 放送

・ 1月1日、5:00頃(株)小田急情報サービスにおいて約200世帯のホームターミナルで障害が起き、正しいチャンネルが映らなくなったが、改めてチャンネルの信号を送信しなおし、対処した。原因は、ホームターミナル制御装置の操作ミスである。通常は電源を切らない加入者管理システムをY2Kの対応のために切り、その立ち上げの際にホームターミナル制御装置の操作ミスをしたもの。

(8) 金融

(9) 航空

・ サテライト空港運航管理卓経由のノータム(航空情報)、気象情報の入手が困難になった。現状では、運航者はプリント出力のほかに、別途、電話、FAX等により、関係情報は入手可能なことから、通常通りの運航は可能。

(10) 海運

(11) 鉄道

(12) 医療

(13) 政府部門

(14) 信号機

(15) 通関

(16) 入国管理

(17) 地方公共団体

・ 石川県環境放射線監視システムのデータが表示されなくなった。原因はY2Kであったが、復旧。

(18) 地域情報